

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第116版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

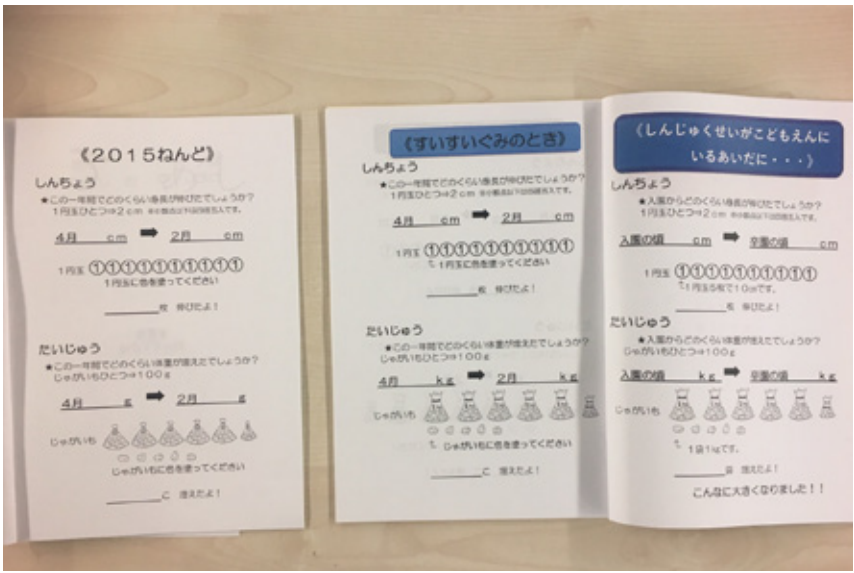
カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



左)これまでの冊子は1年分を記録する様式 右)卒園まで記録できる様式に！

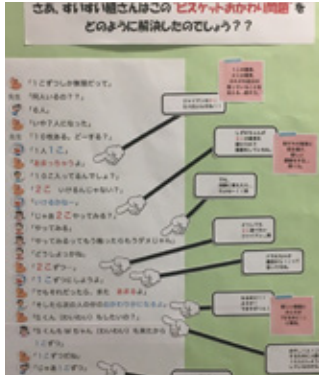
変化し続ける成長展

東京にある新宿せいが保育園様の「成長展」という行事にお伺いしました。

現場の先生方に今回の「成長展」についてお聞きすると、「保護者にお渡ししている冊子に身長や体重などを書けるページを設けているのですが、今までのようにその年だけの記録ではなく、入園から卒園までの記録が書き込めるようにページを増やして、毎年、成長展で書き込んだものを卒園時にお渡しするようにしたんです。」と仰られ、成長の過

程をより感じてもらえるような工夫をされていました。

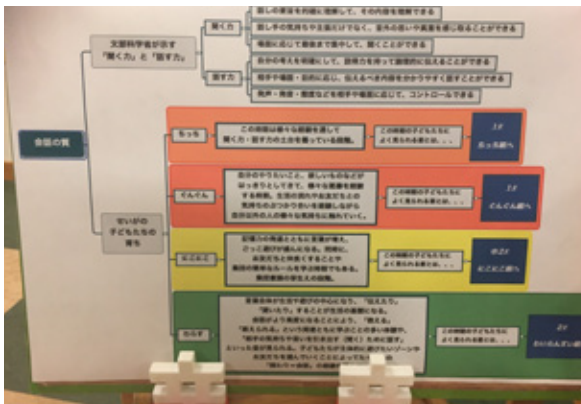
また、園の年間研修テーマが「会話の質」ということで、先生方が子どもたちの会話する様子を動画に撮り、「聞く力」「話す力」が年齢ごとにどう成長していくかを『せいがチャネル』という園内テレビで見せていたり、文部科学省が示す「聞く力」と「話す力」に対して、マインドマップの作成アプリを使った発達段階を見通せる資料(右下写真)や、子どもの会話の様子をまとめ



10枚のバスケットを巡る会話が続けられています。

た資料(左写真)なども展示されていました。例えば年長児6人のバスケットのおかわりを巡る会話からは、子どもの1こずつ分ける、2こずつ分けるなどの声に対して、先生が「それぞれ自分の思っていることを伝える：話す力」。「それなら2こで分けてみる？」の声には「友達の意見に耳を傾け、新しい提案をする：聞く力」と意味づけをし、何気ない会話の中にも子どもの成長が分かるように解説されていました。このように毎回新しい試みがなされている背景には、先生方の好きなお話を活かしたり、新しいアイデアが生まれやすい楽しい雰囲気があるようです。

今年で12回目を迎える「成長展」について藤森先生は「成長展とは1年の間に定期的に描いた人物画などを段階的に展示したり、健康面での成長



アプリを活用し「聞く力」と「話す力」を元にまとめられた資料です！

を具体的な物事で表したり、人間関係における発達を友だちやグループの活動事例で示して、多角的に子どもの成長を可視化したものです。ですから保護者には子どもの成長を色々な視点から見てもらっただけでなく、子どもの何が育っているのか、子どもの成長のためにどのような環境をつくり発達を導いていくのか、そして成長をどう捉えていくのかという『子どもの見方』『保育の考え方』を理解してもらう機会としています。」と仰います。子どもたちや先生方のように、私たちも試行錯誤を続け、成長していきたいです。

居心地の良い場づくり

東京の佼成育子園様で毎年行われている、園の理念から自分たちを振り返る『理念研修』に参加させていただきました。今年は創設70周年ということで、初代から現在の園長(12代目)に至るまでの、園の歴史や各代の園長のお人柄、その時代の保育や保育に対する考え方などを全職員で確認されていました。

一般的に理念研修というと

何か難しいものを感じられてしまうことがありますが、園様で行われた理念研修は笑顔が多く、終始和やかな雰囲気で行われていました。その理由として、参加しやすい場づく

りがあったように思います。

園の当時の様子が伝わりやすいよう事前に写真などをスライドショーに纏めていたり、その時代に園児だった職員の方もいらっしゃったため、「〇〇先生はどの子でしょう？」という、当時の写真を見ながらの顔当てクイズが始まったりと、皆でその一期一会の機会を創り上げていく工夫がされていました。

研修の中身も勿論ですが、

皆が居心地よく感じられるように取り組まれていた場づくりや心遣いの中に、園が大切に守ってきた理念があらわれているように感じました。



顔当てクイズで盛り上がった後は、その先生が園児だった当時の思い出をお話しされ、園の創始理念や子どもたちにとって大切なものが受け継がれていることが感じられました。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

“成長の種” 改善して成長しよう

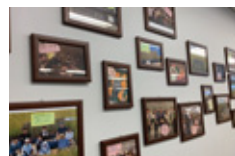


【ハッピーポートフォリオ】10年の間に進化を重ね…。

どんな小さな業務や実践でも、形を変えて発展していくものです。例えばカグヤでは10年続いている「ハッピーポートフォリオ」がありますが、これはクルーの誕生日に一年間の出来事や成長を振り返り、当時のエピソードや写真を冊子にまとめ、本人とその家族へ贈っているものです。もともとは一年分をまとめて振り返っていましたが、一年前のことを思い出すのは大変ですし、冊子をまとめるために集まり話し合う形に

違和感を感じ始めていました。そこで本来の目的を話し合い、全員でひと月ごとにお互いの成長や学び、出来事を味わい合う日を設けることに。そして一年後、それを月ごとに選んでいる「ときめき写真」や「讃給」などと併せてストーリーと共にまとめることにしたのです。

こうして会社の成長に伴い形を変えていくことは保育や子育てにも通じる所があるかもしれません。職種や業務を問わず、どんな所にも成長できるための芽吹きはあるのだと改めて感じさせられます。必ず花が咲くと信じ、目的を皆で握り合いながら実践を積み重ねていきたいと思えます。



【ときめき写真】その月に皆が「ときめいた」写真を選び飾っています。



【讃給】お互いの心遣いや存在そのものに感謝してメッセージを贈っています。

節目のお祝い

3月の行事といえば「ひな祭り」。社内でも女性クルーで子どもの頃の思い出などを話す機会がありました。そんな中、ひな人形を飾っていたことや、ちらし寿司やあらねなど食べた記憶はあるものの曖昧だったので、改めて母にもひな祭りの思い出を電話で聴いてみることに…。すると、初節供を含め自分が知らない話、覚えていない話がどんどん出てきて、こうした節目節目で家族や親族にお祝いしてもらいながら大人になったのだと改めて感じられて、本当にありがたい思いがしました。



社内の室礼も、あらねと炒り米を混ぜたもので川の流れを、その上に紅白の人形や蛤などをしつらえ、ひな祭りの由来にもなる「流し雛」を表しています。

一期一会庵

最幸の学校

先日、私たちが3年間をかけて理念コンサルティングをしているある高校の卒業式とクラスでの最後の1円対話に参加してきました。

高校生への1円対話は私たちもはじめてでしたが、3年間をかけて1円対話で内省を続けてきたことで非常に仲の良いお互いの成長を見守り合う協働的なクラスになりました。そして生徒たち一人ひとりは最初に打ち立てた自分の初心を見事に3年間守り通し、心の持ち方を学び、確実に「成長」していた成果を実感しました。

高校生にもなると入試や進路など、社会人になるための大きな岐路を体験していきます。通常なら受験勉強や部活動に追われて、じつくりと内省をする時間などもなかなか取れないままにあつという間に時間が過ぎ去ってしまうものです。

しかしこの学校は、定期的に1円対話を行って内省をすることでお互いに自分の初心を思い返し自分自身を自分で仕上げていくことを先生も生徒も共に学び合っています。

このように自分自身を大切にしてお互いに見守り合う環境を用意されていることが素晴らしい、このような学校が日本に増えたらどのようなのだろうかと思ってきました。

また日々生徒たちが初心を忘れず、自らの人生のテーマをそれぞれが協働し実現できた体験があればこの先の人生を切り拓くのに「誇り」をもって歩んでいけるのではないかと感じます。私は「誇らしい」という言葉を用いるときは、その人が自分らしく自分の足で人生を決めて歩んでいるのを見守る時にもっともそれを感じます。

生徒たちはみんなこの3年間の学校生活を通して、自己と深く正対し「人としての自信」を身に着けたのです。私は学問本来の喜びや醍醐味とは、この「初心に費やした時間」を言うように思います。なぜなら自らが動機を確認し、自己を律し、自己を創造し、唯一の自己に仕立てていくこと、それが「自ら道を拓く」ということにつながると思うからです。

このような一人ひとりの人生の道を大切に尊重していくような最幸の学校が世界に増えていくことを祈り、私たちカグヤも本業の精進に全身全霊で全うしていきたいと思っています。

編集後記



荒波に揉まれながらダイオウイカを釣りあげる日も夢じゃない？！

卒園・卒業シーズンを迎え、先方は一年で一番忙しい時期に突入していると思います。

先日、久しぶりに長男の卒園アルバムを見返してみると、将来の夢は「漁師」。これは家族内で「???」となるほど、長男からあまりにも想像できない夢でした。釣りに行ったことは2、3度しかなく、獲物が釣れたことは1度も

ありません！釣りが楽しかったなんて感想は聞いたことがない中で、かなりの衝撃だったことを覚えていきます。子どもの興味関心センサは思わぬところに反応するものなのですね。

先生方の卒園アルバムに関する面白エピソード、沢山ありそうですのでぜひお聞かせください♪

(眞田由莉)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます